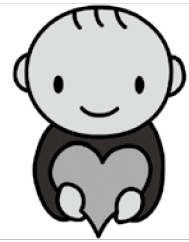


いっしょらぼ



〜JINNOのラボレーション〜
 スクールサポーター
 (臨床心理士)
 小林 真理

ADHDと成長

「子どもなんて動き回ってあたりまえ」確かに子どもが動き回るのは当然のことなのですが、「ちゃんとしないでいい」「よい時」には「ちゃんとできない」ように、人には生まれつき自分の行動をコントロールする力が備わっています。その力をうまく機能させられない、もしくはその力が他の人よりも小さいために、「じっとしていられず動きまわっていて、衝動的で、目の前の課題に集中できない」という状態が小さい頃から続く。「注意欠如／多動性障害（注意欠如／多動症）」（以下…ADHDと表記）と診断される場合があります（ADHDの詳細については平成24年5月号の『いっしょらぼ』をご参照ください）。

ADHDを抱える人は小さい頃、極端に言えば生まれた時から目に見える形で行動の問題

があり、それが幼稚園や保育園など「何かをしなくてはいけない場面」が増える環境になることでさらに表面化し、小学校入学で「座って学習すること」が始まると、より目立ってしまう環境になってしまうのです。

ADHDの主な症状は多動・衝動性・不注意ですが、男の子は多動と衝動性しかみられない場合もありますし、女の子には不注意しかみられない場合もあります。しかし、ほとんどの場合は両方を併せ持っていることが多いと言われています。

成長するに従って大胆に動き回ることができるようになります。徐々に自立たなくなりますが、大人になっても、手先や足元が常に動いていて、なんだか落ち着かない、考えが頭をグルグル回るだけで一向にまとまらずに疲労感だけが残り、就労や子どもの学校や園と家庭の両立を一生懸命にやっても必ず何か重要なことを落としていて訂正の仕方がわからないなど、約3分の2の方は成長しても症状を持続させています。

大人の場合はこういった状態から二次障害としてうつ状態を引き起こしてしまう人も少なくありません。

小さい子どもでも「ちゃんとできるよになりたい」「褒め

られたい」という気持ちや意欲は誰もが持っているものです。それなのに様々な生活の場面で「うまくいかない」経験や注意叱責時には大人からの落胆の言葉や表情を目の当たりにし続けて生活していくことは、これから成長していく子どもの意欲や可能性を封じ込めてしまうことにもなりかねません。

子どものキラリと光るセンスや素晴らしい可能性を見つけて伸ばしていくには、障がいの特性を理解して、コントロールできるように支援や工夫が必要ということなのです。それによって自立たなくなること

もあれば、新たな課題がみえてくるなど、（大人になつてからもその時その時によって必要な支援や工夫も変わっていくのです）。

最初は手探りの支援や工夫であつても、「できたこと」「うまくいったこと」を共に重ねていくことで、子どもだけでなく、周囲の人も一緒に成長していくことができるのです。そして、ADHDと付き合うコツをつかみながら一緒に成長していくということです。

植物園だより

植物観察会とギャラリートークのお知らせ

とき 10月19日(日)
 10時30分から12時まで

講師 植物園園長

内容 植物園が取り組む絶滅危惧植物の保存活動

や、見頃の植物について紹介します。

参加料

入園料のみ
 小学生以上

1人1回100円
 （展示館入館料含む）

*申し込み不要

*天候状況等により時間の短縮や観覧会を中止にする場合があります。

秋のミニ企画展

シヨウマをさがそう

とき 10月13日(月)まで

ところ 植物園展示館

内容 名前にシヨウマとつく植物について、その名前

のいわれや類縁関係などについて紹介します。

参加料

入園料のみ

【問い合わせ先】

植物園 ☎48-3337

マルバノキ



秋咲きのマンサクで、この季節に花と紅葉を一度に楽しめるマルバノキが見頃を迎えます。

◆10月花ごよみ

上旬

アキノキリンソウ、オヤマボクチ、サクラタデ、シラネセンキュウ、フジバカマ、マルバノキ、チアザミ、ヤマトリカブト

中旬

シロヨメナ、ノコンギク、ヤマラッキョウ、リュウノウギク、（紅葉）シラキ、ナツツバキ、ナツハゼ、ヤマザクラ、ヤマウルシ

下旬

（紅葉）アサマフクロ、ツタウルシ、ベニドウダン、マルバノキ、モミジ類、ヤブサンザシ
 （※主なものを掲載）